

リアルダ®錠（成分名：メサラジン）の小児用量について

潰瘍性大腸炎治療薬のリアルダ®錠は、2025年6月24日付で体重23kg超の小児の「用法及び用量」の追加、また「リアルダ錠®600mg」が規格追加の承認を得て2025年9月から販売開始されております。

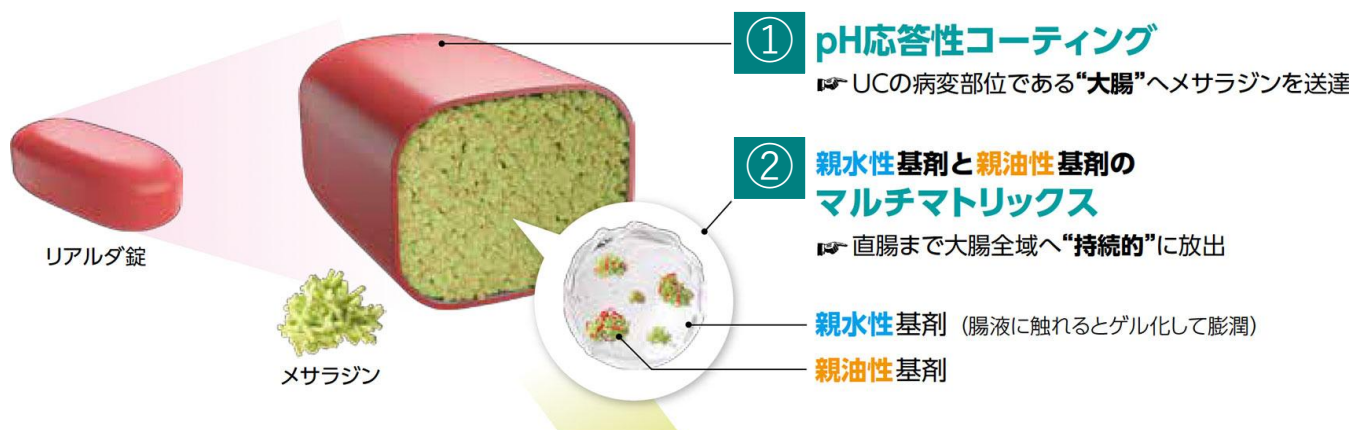
リアルダ®錠はMulti Matrix Systemテクノロジーで設計された特徴のある薬です。大きな特徴については以下の2点です。

① 小腸下部付近のpHでコーティングが溶解し、標的部位である大腸に有効成分を到達させます。

② 親水性基剤と油脂性基剤のマルチマトリックス構造になっており、送達された部位で有効成分を持続的に放出します。

親水性基剤がゲル化して膨張し、メサラジンの放出を緩やかにしています。

油脂性基剤が腸液の侵入を抑制し、メサラジンの放出をより緩やかにしています。



○効能又は効果

潰瘍性大腸炎（重症を除く）

○用法及び用量

—成人—

1日1回2400mgを食後経口投与。

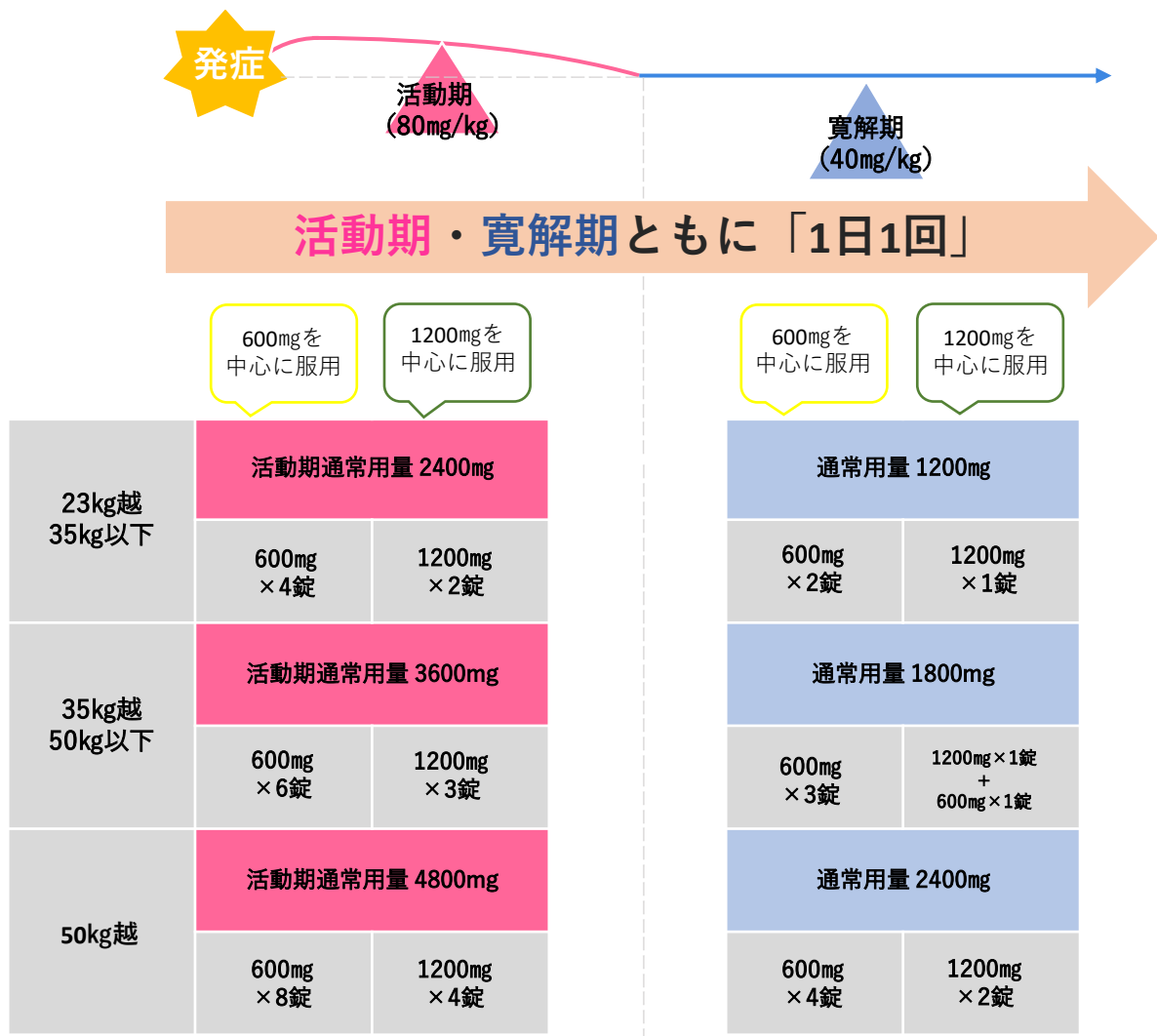
活動期は、1日1回 4800mgを食後経口投与するが、患者の状態により適宜減量する。

—体重23kg超の小児—

1日1回40mg/kgを食後経口投与するが、2400mgを上限とする。

活動期は、1日1回80mg/kgを食後経口投与するが、4800mgを上限とし、患者の状態により適宜減量する。

小児に対する1日投与量（目安）



—Q&A—

Q：1200mgと600mgの錠剤は小児、成人ともにどちらの錠剤でも使用可能？

A：小児から成人まで、潰瘍性大腸炎の活動期・寛解期を問わず使用可能。
ただし、患者の状態を慎重に観察することと添付文書に記載があります。

Q：小児に使用する場合、年齢による処方制限は？

A：年齢による処方制限はなく、体重23kg超の小児であれば処方可能です。

Q：分割・粉碎、一包化、簡易懸濁は可能ですか？

A：錠剤を分割・粉碎、簡易懸濁するなどして投与することはできません。
吸湿により溶出性に影響を及ぼすことがあるため、一包化もできません。

Q：保管方法は？

A：冷所保存（1～15℃）のため、家庭では冷蔵庫に保管をお願いします。
常温であれば1週間程度そのまま持ち歩くことは可能です。夏場など高温になる場合は、保冷剤などを使用してのご移動をご検討ください。



当院は1200mg規格が院内採用となっております。（2026年9月時点）

薬剤に関して、ご不明な点がある際にはお気軽に薬剤部へご相談ください。